



『自分の命は自分で守る』気概を持つ — 区民に大きな感動と反響を呼び起こした減災講演会 —

地震発災時の共助に関わる問題点を話し合った本年2月の「区民のつどい」の模様を本紙24号で特集しましたが、そのフォローアップの意味も兼ね、青葉区民会議と「災害救援ボランティア・セーフティネット青葉区」が共催した「減災講演会」(7月29日、青葉区役所)における山村武彦氏(防災システム研究の第一人者)の講演内容のエッセンスをお知らせします。

① まず、安全神話は捨てよう

私たちが住んでいる日本列島は、地震帯の上にあつて、いつでもどこでも地震は起こることを覚悟しよう。そしてまず、青葉区は大丈夫という「安全神話」を捨てて、災害に備えることが大切である。

② 非常袋の中身は??

いま、用意している物品の他に、笛(自分の居場所を周囲の人に知らせ、助けを求める大切なもの)厚手の靴下、革手袋、家族の写真、2万円程度の現金などを用意しておくこと便利である。

③ 備蓄食糧は8日分用意したい

水や食料は、自力で暮らせる「8日分」は備蓄しておきたいものである。この他に、簡易式のトイレ、紙おむつ、ビニール袋などを用意しておくこと便利である。

④ 今日からできる部屋の安全対策

建物(一九八一年以前に建築したものに)は耐震補強工事を行なう必要があるが、窓ガラスに飛散防止用フィルムを貼るとよい。また、今日からできる部屋の安全対策は、寝室のレイアウトである。家具の近くやエアコン、照明器具の下には寝ない、頭の位置を変えるなど、工夫をすると良い。

⑤ 遠くの親戚より近くの他人が頼り

いざという時には、「向こう3軒両隣」の人たちと助け合える絆を深めておくことである。発災時の初期の段階で

「教育委員会と話そう!」 〜公立校について学ぶ〜

教育・文化部会では、8月5日(土)青葉区役所にて、横浜市教育委員会教育政策課高木課長および仲間係長を招いて、公立校の特色づくりに関する説明と懇談の会を催しました。当日は教育に関心のある区民の方々にも多数ご参加いただき、活発な意見交換が行われました。

公立校が変わる!

横浜市では「自立・分権、地域参画型の開かれた学校」を目指し、提案公募型改革モデル校「バイオニアスクールよこはま」(PPSY)の制度を2年前より始めました。青葉区は今

は、「公助」が期待出来ないだけに、近隣の人たちとの「助け合い」が大切である。そのためには、日ごろからおつき合いを深めたり、いざという時の対応を話し合っておくことである。

⑥ 帰宅困難者の対応は??

「横浜都民」といわれる青葉区民にとって「帰宅困難者」対策はとりわけ関心が高いと思われませんが、この問題に加え、地震発生時の避難方法および正確な情報収集、地域の共助活動のあり方なども盛り込んだ別刷り「いざという時の減災知識・保存版」を作成し、活用



年度より、桂小学校が英語活動つづじが丘小学校が地域参画で指定されています。

学校を選べるというのは本当??

また、PPSYの中でも、児童・生徒数に余裕のある学校が通学区域特認校に指定され、通学区域外から一定の割合で入学を受け入れています。(19年度は桂小学校で各学年10名ずつの募集枠が設定されることがその後発表になりました。)

地域とのつながりはどうなる

他都市で学校選択制度の導入がある一方で、たとえば品川区では学校選択を認めず、「地域と共に子どもを育てる」取り組みに力を入れていいます。横浜市は今後、地域とのつなが

区民会議はさまざまな立場や考えを持った区民が参加し、身近な市民生活の視点での話し合いを通して地域が抱えている課題を共有し、行政に提言し協働してまちづくりを進めていくことを目的としています。
2年毎に公募や自治会、団体推薦の区民がボランティアの運営組織を作り、生活者の視点から地域の問題・ニーズを踏査、調査して提案をする傍ら、「区民のつどい」やシンポジウム・講演会を主催し、区民が問題意識を共有するきっかけを作ります。

下さい。(保存版はホームページを「閲覧いただくか、区役所、各地区センターでお取りください。)

り、そして、学校の特色づくりとの兼ね合いをどのような方向に持って行くか考えているところです。参加者からは、PPSYの成果や他校への波及効果、特色のある活動のために基本的な学習の時間が削減される可能性などについて質問や意見が出されました。成果は学校自ら発信していくということなので、私たちは、桂小学校、つづじが丘小学校をはじめとするPPSY指定校に注目していきたいと思えます。今後いかにしてこうした変革の動きが広がっていくのか、教育現場が良くなっていくことを実感できるのか、そのための課題はたくさん残されているように感じました。その課題に取り組むのは行政ばかりではなく、私たち市民でもあるのではないのでしょうか。

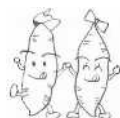
区民会議部会活動

「地場野菜を食べよう」

～ご存知ですか？ 畑のあるまち～

青葉区は、横浜市内で農地が3番目に多く、豊かな自然が残っています。

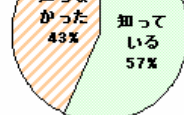
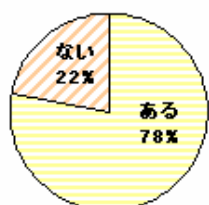
農地・緑保全グループは、新鮮で美味しい地場産農産物の直売所を紹介する小冊子をつくり、「地産地消」を推進しようとしています。そこで、区民の声を聞くために直売所の利用について100人の方にアンケート調査を行いました。



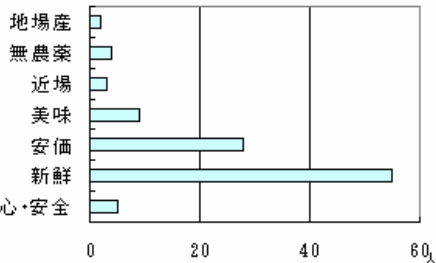
横浜産の野菜・果物を直売所で買ったことが

買った場所は

「地産地消」という言葉を



直売所で買った理由は



青葉区の直売所マップがあれば便利だと思いますか？との質問には88%の方が必要・利用したいと回答しています。

直売所の地図、販売品目、開始時間、販売期間などを記載して欲しいとの要望が多くありました。

「地産地消」という言葉を知っている方は57%でした。「地産地消」とは、その地域で生産されるものをその地域で消費することです。

横浜生まれの野菜や果物のブランド「はま菜ちゃん」は、横浜で育った野菜と果物のシンボルマークです。

現在、野菜：26品目、果樹：4品目が認定されています。

市内に設置されているアンテナショップや農家の人たちが直接売っている場所もあります。

農地・緑地の保全と活用グループは、青葉区内の直売所をまわり、小冊子作りのご協力をお願いしています。農家の方々や野菜作りの苦労話や収穫時の喜びなど和気あいあいと楽しく活動しています。



はま菜ちゃん

青葉区 次世代に残したいもの

自然環境部会、川グループは青葉区内の現状を調査するため、里山、川の流域、樹林地などを歩きました。その中で、青葉区内にも素晴らしい自然や景観、文化遺産があることに気がつきました。次世代に残したいものとして、画像でまとめようと準備をしています。

文化遺産の例(驚神社の祭礼)

体育の日の前日に行なわれます。この日、石川各地の谷戸宮や、保木の十社宮、平川神社、荇子田の八幡社、船頭の御嶽社、牛込の神明社と、それらを迎える宮元から繰り出した神輿・大太鼓・山車・囃子車が平崎橋周辺に結集。奉納行列が驚神社へと組み進み、最後に300年の歴史があり、市の無形民族文化財に指定されている牛込の獅子舞が神前で奉納されます。(自然環境部会)



地震はいつくる？ 昼間ですか、夜間ですか？

—青葉区民の減災マニュアルを作ろう—

いつ起きてもおかしくない大地震。地震を防ぐことはできませんが、被害を少なくすることはできます。では、どうしますか？

今年9月1日に実施された青葉区総合防災訓練は、平日のため参加は主婦とリタイアした男性、高齢者で占められていました。週末であれば現役世代が参加できたのに・・・という声も聞かれましたが、昼間に地震が起きればこれは現実です。青葉区の通勤・通学者の半数以上が昼間は都内方面におり、帰宅困難者となることを考えると今ある防災計画では対応できません。青葉区民の実情に沿った「減災マニュアル」が必要ではないでしょうか？

私たちは、ライフラインの災害時対応についてまず東京ガスの安全担当者を招くことから勉強会を始めました。東京ガスは3800ヶ所に地震センサーを設置し、遠隔操作によりガスを供給遮断できる地震防災システムを運用しており、震度5強以上の地震を感じると自動的に停止するマイコンメーターが家庭に設置されていますが、青葉区ではどうなっているのでしょうか？(プロパンガス使用家庭は？)



また災害対策基本条例を制定した千代田区を訪問しました。地震発生後都内に停留するだろう帰宅困難者(青葉区民)への対応を知るためです。都内の青葉区民と青葉区の家はどのように連絡しあうのか？ 災害用伝言ダイヤルだけで対応できるのか？ 横浜市が4月から運用開始した災害時安否情報システムはどう使うのか—まだまだ調べなくてはならないことが山積みです。時には勉強会に市議員に参加いただき情報交換もしています。区民ひとりひとりに関わるものです。一緒に作りませんか。(安全・安心部会)

「一人暮らし高齢者の見守りシステム」

今年の2月に横浜市で孤独死が新聞で報じられました。我々の身近でもこれと同じように、一人暮らし高齢者が数

区民会議部会活動

日間も気がつかないといったことが起きてしまいました。そこで、当部会ではこのような一人暮らしの高齢者がどのように社会的に支援されているかについて調べてみました。



青葉区の担当部署の説明

によると、当青葉区では「高齢者等定期訪問事業」で高齢単身者に対して見守りシステムを持っているということでした。これは民生委員、保健活動推進委員、友愛活動推進員という人たちが、原則月1回訪問して、一人暮らしの高齢者を見守るという仕組みです。しかし、このシステムに関しては、月1回の訪問しかなされないこと、強制力をもたないため対象者に漏れがあること、さらに市民に対してあまり知られていないこと、などの問題点が挙げられました。

そもそも一人暮らし高齢者のニーズがきちんと把握されていないことも大きな問題ではないかと考え、来年度の予算に実態把握のための調査を実施するための予算措置を要望することとしました。さらに、今後ともこの問題を課題として取り組んでいくこととしました。

(福祉・コミュニティ部会)

横浜市立新治小学校・新治養護学校見学

教育・文化部会では、7月10日、横浜市立新治小学校・新治養護学校(緑区)を視察しました。

周辺を市民の森、梅田川、田畑に囲まれた、豊かな自然環境と、仕切りのない明るく開放的なつくりの校舎、学校と保護者の協力体制など、いくつも優れた特色のある、生き生きとした学校でした。



新治小の広々とした、仕切りのない教室

さらに、新治小学校と養護学校とが同じ建物でつながっていることから、両校の子どもたちの自然な交流が生じ、また学校主催の合同行事による交流なども盛んで、とても良い雰囲気でした。「地域



新治小および新治養護学校の緑あふれる環境

参画型」の小学校の実現を目指していることから、PSY(=パイオニアスクールよこはま)に認定されています。

昨年度就任された角田校長が、積極的に進められたのが、保護者と教師の連携です。授業参観前に、保護者にアンケート用紙を配布、授業や先生に対する意見、感想を積極的に出して貰い、一方で先生側にも、保護者に期待することを出して貰い、保護者に伝えます。こうした活動により、保護者と先生とがパートナー意識をもって子育てをしようという機運が、高まってきているようです。素晴らしい試みですね。そして新治養護学校では、障害を持ったお子さんたちが、先生方の温かい眼差しに守られ、自然や音楽の美しさや喜びに触れている姿が印象的でした。

(教育・文化部会)

「区政のキーワード、協働・市民参加」

成熟した低成長時代、少子化・高齢化社会、国政・自治体レベルでの財政逼迫、住民ニーズの多様化、教育行政の地方への委託の増加等々の問題に直面している今、『協働・市民参加』が区政のキーワードです。

限られた予算の中で、住民にとって本当のニーズは何か？現行の市政・区政の中の非効率、無駄は無いのか？時代・環境が変化する中で子ども達にとって必要な教育とは何か？どれを取っても区民(市民)ならびに、行政・区民(市民)・企業・団体による真の協働の実現が欠かせず、コミュニティとしての責任の一端を負うべき課題です。

青葉区には多様な才能を持ち、ボランティアとして活躍している方、これからしようと考えている方が沢山います。夢のある、誇れる青葉区の街づくりのために、多くの人が集える土台作りの活動=協働・市民参加=を考えていきます。(協働・市民参加部会)

19年度横浜市予算へ区民会議からの要望・提言

次年度の予算編成作業が各局で行われています。予算や体制作りへの反映にむけて市民・区民ニーズと取り組んできました。青葉区長を通して横浜市へ要望・提言を提出します。また回答が届き次第みなさまに紙面やホームページを使い、お知らせをいたします。

- ・青葉区での地場産業への取り組み開示
- ・景観保護について青葉区の方針開示
- ・雨水調整池ビオトープの整備を早急に
- ・「一般廃棄物」「家庭系ごみ」の発生抑制・減量化・リサイクル化等について青葉区の取り組み実績などのデータ開示
- ・交番の夕方から夜間における警察官不在状態の早期解消
- ・日吉・元石川線 平原橋 右折レーンの設置
- ・自転車が原因の事故多発一 ゼロを目指して対応の根本的な見直し
- ・青葉区防災計画の大幅な見直し
- ・点字ブロック敷設時の取り組み(誰もが住みやすいまちづくりに向けて)
- ・地域の人材を学校という場で生かす様々な取り組み提案-「パイオニアスクールよこはま」事業などへ
- ・学校図書室の充実に向けて司書配置や支援の仕組み
- ・図書館をもっと利用しやすく一予約や受け渡しサービスを地域に一
- ・孤独死防止への取り組みをさらに進めるために、一人暮らし高齢者の意向調査実施
- ・青葉区の養護学校新設要望 ゼロから1へ
- ・区民にとって使いやすい施設に一区内の施設全体の問題点を整理・評価する機関:区民施設利用協議会(仮称)の設置

あなたも区民会議に参加し、活動の喜びを共有しませんか？

『はじめて区民会議に参加して』

私が区民会議の委員に応募したのは、昨年2月に所属団体会長に勧められたのがきっかけでした。今まで経験したことのないことに興味を持ちましたし、所属団体の利害に関係なく個人として活動できる点も魅力でした。しかし、任期が始まる4月までに自分の活動のテーマが定まらず、参加する部会を決めるのは非常に難しく感じました。活動を始めてしばらくしてから、友人や知人に「青葉区にどうぞ住んでみてください。本当に素晴らしい所ですから・・・」と自慢のできる街であつたらいいなと、思うようになりました。現在は、青葉区の現状は全国の市町村と比べてどうなのか、お手本となる市町村の取り組みはどのようなものか等について、自分なりに資料や情報を収集しています。もちろん、今はまさに五里霧中、試行錯誤の連続です。(50代、女性、団体推薦)

忙しい会社勤めの中、青葉区民といっても自宅と最寄り駅との往復だけの横浜都民生活を送っていましたが、たまたま委員公募の広報を見て、地元のために多少でもお役に立ちたいと思い今期より仲間に入れていただきました。自然環境に関心がありましたので、現在は市民の立場から青葉区のより良いまちづくりや水と緑の環境の保全・育成などについて、調査検討をして行政に提言する活動を自然や環境に熱い思いを持つ仲間達としています。やりがいのある楽しい活動ですので、来期も各世代の新しい方が多く参加して下さることを期待しています。(50代、男性、公募)

「区民会議って何ですか？」実は区民会議の存在さえも知らずに団体推薦で仲間に入れていただきました。子育てや教育に追われ、どちらかといえば地域には無関心な世代なので、私にとっての区民会議活動は地域に気付くきっかけになった気がします。地域を知り、関わるのって意外と(?)メリットがありますし、年代や性別等にかたよりの無い委員構成になるように、同世代の方にもっと参加していただけたらうれしいですね。ぜひどうぞ！(30代、女性、団体推薦)

区民9年目となりますが、区民として区政に係わり合いを持ちたいと考えていた折、区民会議の存在を知り参加しました。私自身は、福祉の分野に関心があり、区での体制やシステムの運用がどうなっているのかを調べ、問題点に関して改善の提案、発言をして行きたいと思っています。普段の生活の中ではなかなか知れない情報の収集と発信が出来たらと考えています。又、参加したことで多くの方々を知り合う事が出来、良かったと思っています。(40代、男性、公募)

私が当時の連合自治会会長から「君を区民会議の委員に推薦する」といわれた時、区民会議とは何なのか全然知りませんでした。しかし委員になって1年以上経った今、区民会議の委員になって本当によかったと思っています。それは、参加されている委員の構成が大変多様な分野で活動された経験を持つ方々からなり、非常に広範囲に亘る情報がここに集まり、それを活用して私共の生活の向上に資する提案を、行政に対して行えるからです。(70代 男性、自治会推薦)

「区役所駐車場、渋滞が少なくなりました」

平成17年の2月より、区役所第二・第三駐車場の進入経路が変更になりました。ご存知でしたか。これは区民会議の提言が実現したものです。

ひどい時には246号線交差点まで伸びた幹線道路での駐車待ち。渋滞解消と追い越しによる交通事故防止のため、2年間にわたり解決策とともに区民会議から提言しました。青葉警察、青葉土木事務所、青葉区役所などが協議の末、進入経路の変更が決定し今日に至っています。

進入経路表示板や駐車場案内板の整備、谷本川沿の農道も整備され、駐車ゲートも出入り口の変更が行われました。

駐車場ごとに利用対象を分け、区役所利用者にとって少しでも便利に利用してもらえるよう、駐車券の発行方法の工夫もされました。日ごろ不便だと感じていることも、不便と思うだけにとどまらず、「区民のつどい」などで話し合っただけ、みなさんと一緒に考え、解決の一助へと、区民会議はみなさんのご参加とご意見をお待ちしています。



編集後記
区民会議ニュース25号をお届けします。災害時の共助をテーマに2月に開催した区民のつどいの様子の特集した24号が非常に面白かったという多くの声は、私たち区民会議にとって明日に繋がる大きな活力になっています。25号の編集に際し、編集チーム全員の総意の下、区民会議のメンバーがどのような思いで活動を続けているのか、活動の内容や実現した提言など、なるべく具体的に伝えるように留意したつもりです。尚本号で掲載出来なかったその他の様々な活動の状況については、どうぞホームページを開いて見てください。

区民会議第7期委員公募が始まります

活動期間:平成19年4月から2年間
参加資格:青葉区在住の区民。グループによる話し合いに参加し活動できる方。
申込み問合せ先:
〒225-0024横浜市青葉区市ケ尾町31-4
青葉区役所広報相談係内
「青葉区民会議委員募集係」
電話:978-2221 ファックス:978-2411

青葉区民会議のホームページをリニューアルしました。ご覧ください。

ご意見はメールでお寄せください。

<http://www.aobakuminkaigi.com/>

メールアドレス mail@aobakuminkaigi.com